

# 枚方市におけるひきこもり等の子ども・若者支援について

～ひきこもり等子ども・若者相談支援センター及び

ひきこもり等地域支援ネットワーク会議の取り組みより～

## 【1】これまでの経過など

### 1. ひきこもり等子ども・若者相談支援センターでの相談の開始

- ・平成 25 年 4 月から、臨床心理士 1 人、社会福祉士 1 人で開始。現在は臨床心理士 3 人、社会福祉士 1 人の体制で電話と面接での相談を実施。
- ・相談件数は、初年度延 688 件。平成 28 年度延 1,548 件。継続ケースが増えている。
- ・必要があれば、アウトリーチ（訪問支援）を実施。

### 2. 居場所支援「ひらぼ」の開始

- ・平成 26 年 6 月より、枚方公園青少年センターにて開始。現在、月 7 回程度。
- ・コーディネーター 1 人、サポートフレンド（ボランティア）1～2 人、当事者数人。
- ・相談の次のステップとして機能。ゲーム・創作・スポーツ・調理等々。
- ・職場体験等のメニューも実施

### 3. 「家族の会」の開始

- ・平成 26 年 7 月よりひきこもり等子ども・若者相談支援センターで相談をおこなっている親の集まりである「家族の会」を開始。月 1 回実施。

### 4. ネットワーク会議の継続

- ・平成 24 年 6 月から枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議を継続して実施。
- ・現在 1 回／2 月で実施。約 30 機関に案内。顔の見える関係の構築ができてきている。

### 5. 市民連続講座

- ・平成 25 年度より毎年実施。年 4～5 回。

### 6. 人材の育成

- ・居場所支援「ひらぼ」の運営を手伝ってもらう、サポートフレンド養成講座を実施（H25 年度、H27 年度）。「ひらぼ」に参加してもらうと同時に、理解者を広げる目的。

### 7. 若者サポートステーションとの連携

- ・相談・居場所の次のステップとして、就労支援機関「若者サポートステーション」と連携。

### 8. 地域の就労先の開拓

- ・居場所のメニューに地域の事業所の協力のもと就労体験（ポスティング）を企画。アルバイトや就労につながっているケースもある。

### 9. 家族会との連携

- ・ネットワーク会議で、既に活動されていた 4 つの家族会、当事者会と意見交換を年 1 回おこなってきた。
- ・平成 28 年度に市内の 4 家族会で枚方市ひきこもり家族会連絡会が結成され、代表者にはネットワーク会議に参画してもらっている。平成 29 年 2 月にシンポジウムを実施。

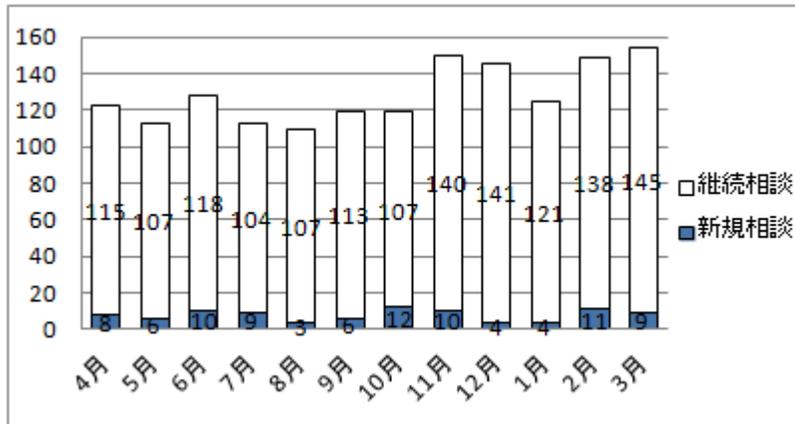
## 【2】 今後目指したいこと、課題など

1. どこに相談してよいかわからず、悩んでいる当事者・家族はまだまだおられる。ひきこもり等子ども・若者相談支援センターだけでなく、さまざまな取り組みをしている関係機関についての周知や、相談に来てもらいやすさの工夫が必要ではないか。
2. 相談が中断しているケースへのサポートがあまり出来ていない。民間も含め多様な相談場所を紹介できる仕組みが必要。
3. いきなり就職ということではなく、段階的に就労体験を実施して、自信をつけるような地域の資源の開拓が必要。協力してくれる事業者を増やす必要がある。
4. これまで、高等学校にはネットワーク会議に参加していただいたり、養護教諭と意見交換会を行ったこともある。今後も連携を深め、中途退学の予防や退学後のサポート体制を整えていく必要がある。
5. 不登校やひきこもりなどについては、中学校や高校在学時は支援があるが、卒業したとたん途切れてしまう。そして、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターには、状態が長期化した若者や家族が相談に来るケースも多い。教育や福祉、NPOや支援機関と連携し、きれ目のない支援を目指したい。また「ひきこもりの予防」について、あらゆる角度から研究する必要がある。
6. 医療機関との連携について。現在ネットワーク会議に参加いただいているのは、大阪府精神医療センターだけなので、今後は開業医の精神科クリニックなどにも参加依頼してはどうか。

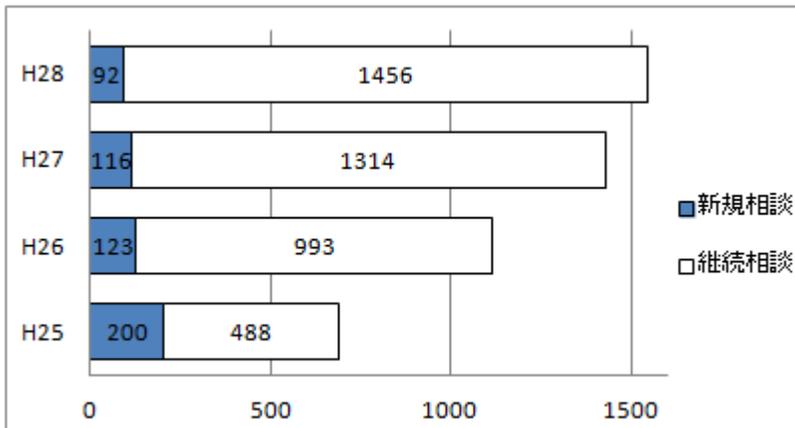
### 【3】 ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

#### 1. 平成 28 年度月別延べ相談件数

新規相談が 92 件、継続相談が 1,456 件、合計延べ相談件数は 1,548 件でした。



継続相談の積み重ねが延べ相談件数の増加につながっています。

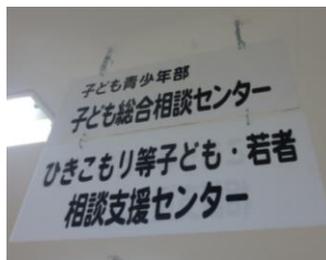


#### 2. 場所

##### ○ 枚方市子ども総合相談センター・となとな内

平成 28 年 4 月、機構改革により、子どもやその家族の多様化・複雑化する相談に総合的に対応するため、ひきこもり等子ども・若者相談支援センター、家庭児童相談所、ひとり親家庭等自立相談窓口を集約した、子ども総合相談センター・となとな内にて再スタートしました。

10 月からは、サンプラザ 3 号館 4 階に移転し、専用の相談室も増設されました (2 室)。



### 3. 相談員

#### ○ 臨床心理士等の専門相談員が対応

臨床心理士3名、社会福祉士1名の4名体制で対応しています。

相談員のスキルアップのため、2か月に1回ひきこもり等の支援について外部講師より助言をもらうスーパービジョンを実施し、各種研修へも参加しました。また、相談員同士の情報共有の場を毎週1回、枚方若者サポートステーションとの共有会を月1回行いました。

### 4. 相談方法

#### ○ 電話相談と面接相談（専用電話を設置）

	H25	H26	H27	H28
面接相談	540	1029	1289	1348
電話相談	148	87	141	200
計	688	1116	1430	1548

平成28年度は、面接相談が延べ1,348件、電話相談が延べ200件でした。直接お会いし時間をかけて相談をお受けすることが多いですが、相談者に応じて使いわけています。

### 5. 相談対象者

<年齢>

#### ○ 相談対象者は、おおむね15歳（中学卒業後）から39歳まで

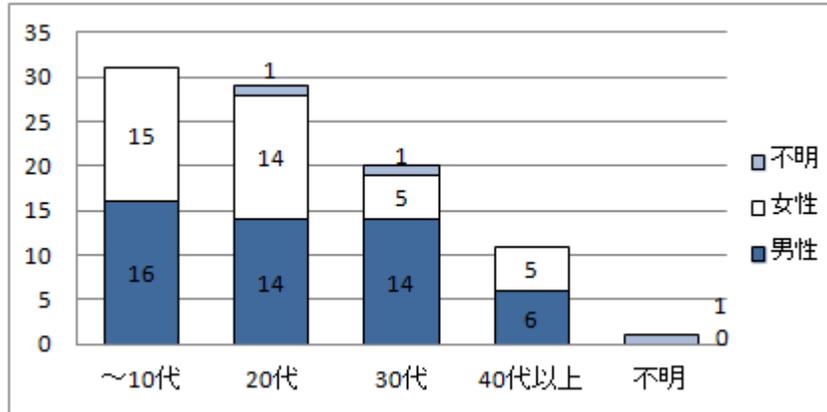
（40代以上の方のご相談もお受けしています。）

平成28年度は、10代が一番多く、20代、30代と続きます。15歳から対象ということ考えると、10代の多さは特徴的です。また、一定数40代以上の方の相談もあるという現状がみられました。

年代×性別

	～10代	20代	30代	40代以上	不明	計	
男性	16	14	14	6	0	50	54.3%
女性	15	14	5	5	0	39	42.4%
不明	0	1	1	0	1	3	3.3%
計	31	29	20	11	1	92	
	33.7%	31.5%	21.7%	12.0%	1.1%		

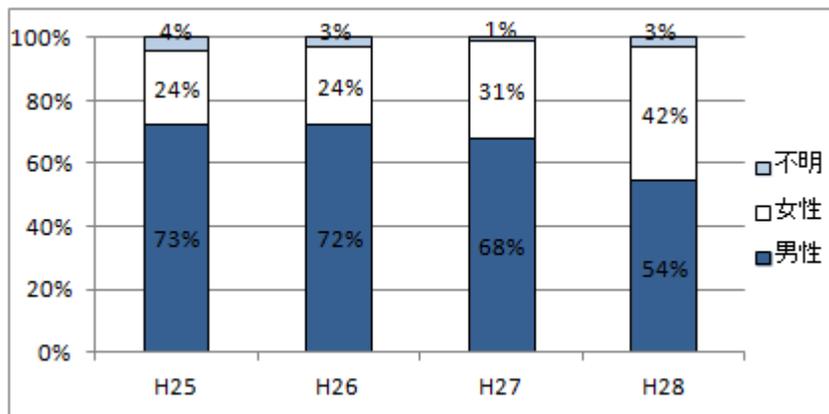
（新規相談92件より）



<性別>

男性対象者についての相談の方が多い点は変わりませんが、少しずつ女性対象者についての相談の割合が増加しています。

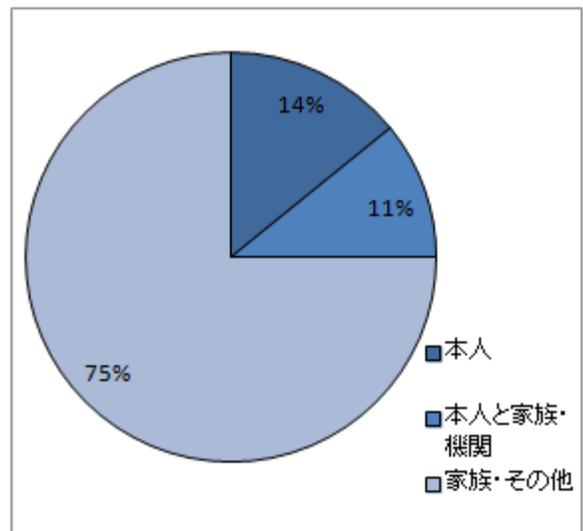
	H25		H26		H27		H28	
男性	145	(72.5%)	89	(72.4%)	79	(68.1%)	50	(54.3%)
女性	47	(23.5%)	30	(24.4%)	36	(31.0%)	39	(42.4%)
不明	8	(4.0%)	4	(3.3%)	1	(0.9%)	3	(3.3%)
計	200		123		116		92	



<相談者>

○ 相談は、ご本人とご家族、関係者の方が対象  
— 初回相談者 —

本人	13	14.1%
本人と家族・機関	10	10.9%
家族・その他	69	75.0%
計	92	



初回相談の割合は、75.0%がご家族からです。

まずはご家族との定期的な継続相談を続け、徐々にご本人とつながっていくことを目指していきます。

	H25		H26		H27		H28	
本人	10	(5.0%)	9	(7.3%)	10	(8.6%)	13	(14.1%)
本人と家族・機関	4	(2.0%)	8	(6.5%)	6	(5.2%)	10	(10.9%)
家族・その他	186	(93.0%)	106	(86.2%)	100	(86.2%)	69	(75.0%)
計	200		123		116		92	

—経路—

	H27		H28		
関係機関	37	(46.3%)	34	(51.5%)	ひきこもり等子ども・若者相談支援センターを知ったきっかけは、関係機関からの紹介が51.5%（地域若者サポートステーション、家庭児童相談担当、医療機関、高等学校、若者支援関係NPOなど）、広報（10月号に子ども総合相談センターについて掲載）やホームページが次いで多くなっています。
広報	10	(12.5%)	12	(18.2%)	
ホームページ	16	(20.0%)	7	(10.6%)	
知人	3	(3.8%)	2	(3.0%)	
その他	14	(17.4%)	11	(16.7%)	
計	80		66		

（新規相談の内、聴き取りを行った分）

ています。「その他」の中には、コールセンターよりつながったもの、既にご家族やきょうだいが相談しているというものがありました。

<居住地>

	H28	
市内	79	85.9%
市外	9	9.8%
不明	4	4.3%
計	92	

対象は市内在住の方ですが、市外の方からの相談もありました。一旦お聴きして、他市で利用できる相談窓口の情報提供を行うまでの対応をしています。

## 6. 相談内容

### ○ 相談内容は、ひきこもり、ニート、不登校に関するものが対象

平成 28 年度の相談内容は、ひきこもりと準ひきこもり相談が合わせて 45.6%、続いて不登校相談が 16.7%、就労相談が 13.2%でした。

ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計
21	31	19	1	15	27	114
18.4%	27.2%	16.7%	0.9%	13.2%	23.6%	

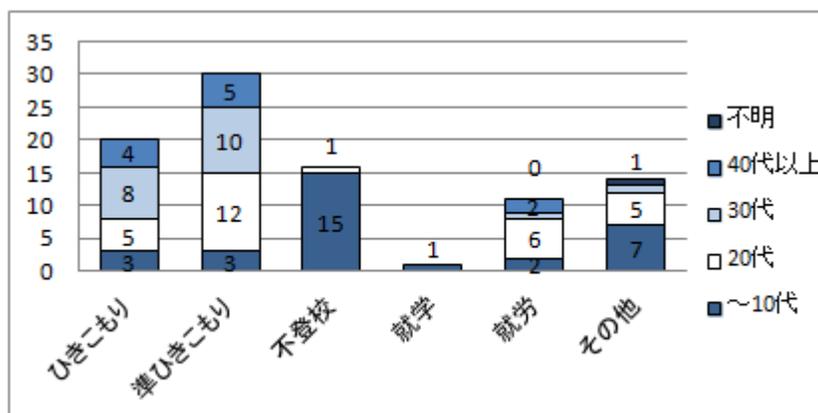
(相談内容の複数選択あり)

ひきこもりと準ひきこもり相談は、20代と30代が中心ですが、それぞれ各年代からの相談がありました。

#### 年代×内容①

	ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計	
～10代	3	3	15	1	2	7	31	33.7%
20代	5	12	1	0	6	5	29	31.5%
30代	8	10	0	0	1	1	20	21.7%
40代以上	4	5	0	0	2	0	11	12.0%
不明	0	0	0	0	0	1	1	1.1%
計	20	30	16	1	11	14	92	
	21.7%	32.6%	17.4%	1.1%	12.0%	15.2%		

(新規相談 116 件より)



※年代と相談内容別の件数は、主な相談内容をひとつにして集計しています。

## 7. 支援内容

### ○ 1回の電話及び面接相談で、助言や適切な窓口につないで終了したケース

新規相談 92 件中、43 件でした。終了の例としては、適切な支援機関の情報提供や資源の整理、家族の関わり方についての助言を行ったものなどです。

(情報提供支援機関)

若者支援関係 NPO 等、枚方市保健所、他市相談窓口、枚方市居場所支援事業「ひらぼ」、地域若者サポートステーション、家庭児童相談所、医療機関など（多かったものを抜粋）。

### ○ 複数回の相談を重ねて助言や他機関へのつなぎをしたもの、または継続相談となっているケース

新規相談 92 件中、49 件でした。

平成 28 年度末で継続相談中のケースは 94 件です。その内、ご本人と継続相談中が 52 件、ご家族と継続相談中が 64 件です。

ご家族とご本人両方の相談をお聴きしているケースも 22 件あります。

	H25	H26	H27	H28
各年度、3.31時点で継続相談中	50	72	82	94
本人と継続相談中	17	36	47	52
家族と継続相談中	38	56	72	64
(内)本人と家族と並行で継続相談中	5	20	37	22

(H25年度からの継続相談も含む)

### ○ 訪問支援

	H25	H26	H27	H28
家庭訪問	22	40	53	49
同行訪問	11	18	25	22
計	33	58	78	71

継続相談の中で、必要に応じて訪問支援を行いました。

ご自宅へ伺って、ご本人のお話をお聴きする家庭訪問は、49 件、ご本人やご家族と一緒に各窓口に行き、同行訪問は、22 件ありました。

(同行訪問先) 地域若者サポートステーション、就労体験の職場、市役所各窓口、福祉関係事業所など

## ○機関連携

機関連携	52
その他支援(手紙など)	10

※11月より集計

ご本人やご家族の了承の元、他機関に紹介するための事前連絡や、状況の共有、支援のための協議など、機関との連携を行いました。また、本人へ手紙を送るなど、様々な支援の方法を検討しています。

## ○居場所支援「ひらぼ」

ひきこもり等の子ども・若者が社会に参加するきっかけとするためのスモールステップとしての居場所支援「ひらぼ」を、枚方公園青少年センターを中心に実施しています。相談支援センターの相談者を対象に、相談員との1対1の関係からステップアップし、5、6人の集団での活動を通して社会とのつながりを築いていくことを目指します。実際の活動においては、専門のコーディネーターを設置し、「サポートフレンド養成講座」を受講したサポートフレンド(登録者31名)の協力を得て、料理やゲーム、スポーツや外出イベントなどの活動を行いました。

また、NPO フェスタへの参加や、女性中心の会、月1同好会(男性中心)、地域の新聞販売店のご協力を得てポスティング体験など、より一人ひとりに合ったプログラムを検討することで、初めてひらぼに参加する若者が挑戦しやすいように工夫しています。

平成28年度新たな試みとして、経験を積み慣れてきた方が、さらにもうワンステップ進んでいく「ひらぼ Ver2.0」を設定しました。居場所の準備段階から参加したり、参加しはじめのメンバーのフォローをしたり、ボランティアスタッフに近い立場での参加をすることです。主体的に動いていくことや、「ひらぼ」の先輩として支援する役割を担うことで、自信と社会性をより身につけていくことを目指します。社会的自立に向けて、居場所支援「ひらぼ」からの卒業を意識したステップでもあります。

居場所支援と並行して、個別の面接相談も継続することで、一人ひとりに合った支援を行っています。

平成28年度は、毎週水曜日と、他の曜日に月2、3回開催し、計80回、参加延べ人数は333人でした(実人数24人/平成27年は17人、平成26年度は7人)。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所回数	6	6	7	7	7	8	6	7	6	6	7	7	80
参加延べ人数	30	27	22	25	26	30	24	25	36	20	33	35	333

また、居場所支援に携わるサポートフレンドを対象に隔月、研修会を実施した他、市の連続講座、府主催のひきこもりサポーター養成研修をサポートフレンドのためのフォローアップ研修としました。

居場所支援「ひらぼ」を中心に、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターの取り組みを周知するため、通信「ひらぼう」を発行しました。

## ○家族の会

実施回数	11
参加延べ人数	54

月に1回、相談支援センターの相談者を対象に同じ悩みを持つ家族の相互理解や交流を目的として、家族の会を開催しました。

平成28年度は実施が11回、参加延べ人数は54人でした。

2時間の内、前半はテーマを設け、支援機関等からの情報提供の時間とし、後半は日ごろの子どもとの関わりなど、各自が自由に思いを語り合う時間としました。また、交流もかねて調理イベントを行いました。親自身が‘楽しむ’ことを体験する時間となりました。

---

4月	子ども総合相談センターについて
5月	ひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて【子ども総合相談センター】
6月	若者の就労支援について【枚方若者サポートステーション】
7月	発達障害について【北摂杉の子会】
9月	お金のことについて【日本生命保険相互会社・ファイナンシャルプランナー】
10月	障害福祉について(障害年金、手帳など)【障害福祉室】
11月	福祉的就労について【枚方市障害者就業・生活支援センター】
12月	年金について【年金児童手当課】
1月	フリーテーマ
2月	生活保護について【生活福祉室】
3月	調理イベント・交流会

---

開催日時は毎月第2木曜日午後2時～4時  
8月は休み

## 【4】市民啓発等

### 1. 子ども・若者支援のための市民連続講座 ―ひとりひとりが自分らしく―

ひきこもり等の問題とひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて、市民により広く、深く知っていただくために連続講座を企画しました。

4回実施し、延べ237名の参加をいただきました。関係機関や相談を行っている当事者(親)の参加も多く、ひきこもり等の若者の現状と支援について理解を深める機会となりました。

#### 【第1回】

日時：平成28年11月7日(月) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：子ども・若者の自立と地域支援―地域臨床心理学の視点から―

講師：石田 陽彦さん（関西大学臨床心理専門職大学院教授）

参加者：47人



#### 【第2回】

日時：平成28年11月27日(日) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）大研修室

テーマ：ひきこもりの若者を取り巻く状況

講師：斎藤 環さん（筑波大学大学院人間総合研究科教授）

参加者：112人



#### 【第3回】

日時：平成29年1月21日(土) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：若者の就労体験プログラムとキャリア教育

―通信制・定時制高校の生徒たちを支える仕組みへ―

講師：今井 紀明さん（認定NPO法人D×P理事長）

参加者：33人



#### 【第4回】

日時：平成29年2月4日(土) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：生きにくさを抱える発達障害の若者の理解と支援

講師：橋本 和明さん（花園大学社会福祉学部臨床心理学科教授）

参加者：45人



## 2. 職員による出前講座等

生涯学習課で実施している「職員による出前講座」に「若者の置かれている現状－ひきこもり・ニートを中心に」「青年期の心模様」の2つをメニューとして上げています。平成28年は、1回申込があり、実施しました。また、団体等から直接の講座の依頼もあり、対応しました

### ①職員による出前講座

団体名：招提中学校地域教育協議会

日時：平成28年8月28日(金)10:00～11:00

場所：招提中学校 参加者：50人

テーマ：1)若者の置かれている現状について

2)青年期の心模様

### ②枚方市自立支援協議会 精神障害者地域生活支援部会

日時：平成28年9月23日(金)14:00～16:30

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）

テーマ：若者の置かれている現状－ひきこもり・ニートを中心に－

### ③青少年育成指導員連絡協議会 北部ブロック研修

日時：平成28年11月26日(日)14:00～16:00

場所：殿山第二小学校 参加者：40人

テーマ：1)若者の置かれている現状について

2)青年期の心模様

### ④枚方市コミュニティ連絡協議会 北部ブロック 地域リーダー育成研修会

日時：平成29年1月22日(日)10:00～12:00

場所：牧野生涯学習市民センター 参加者：110人

テーマ：1)若者の置かれている現状

2)青年期の心模様

### 3. 子ども総合相談センター「となとな」オープニングイベント

平成 28 年 4 月の枚方市の機構改革により、子どもやその家族の多様化・複雑化する相談に総合的に対応するため、家庭児童相談所、ひきこもり等子ども・若者相談支援センター、ひとり親家庭等自立相談など、相談窓口及び相談機能を集約し、関係機関との連携を図りつつ、切れ目なく適切な支援施策につなげるため、子ども青少年部に新たに子ども総合相談センターを設置しました。9 月までは、庁舎の都合上、枚方市役所別館 5 階（ひきこもり等相談とひとり等相談）とサンプラザ 3 号館 4 階（家庭児童相談）とに分かれて相談をおこなっていましたが、10 月よりサンプラザ 3 号館 4 階に総合的な窓口をオープンすることとなりました。

オープンにあたって市民に愛称を募集したところ、52 件の応募があり、選考の結果「いっつもとなりで見守っていますよ」という意味で「となとな」と決定しました。12 月には、子ども総合相談センターを広く周知するため、オープニングイベントを行い、市長から愛称「となとな」を発表後、記念講演会を実施しました。

また、周知のためのリーフレットを作成しました。

<オープニングイベント記念講演会>

日時等：平成28年12月2日(金)10:00～12:00 メセナひらかた会館

テーマ：いくつになっても迷ったり悩んだり

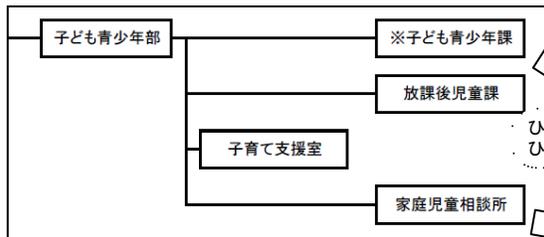
～『子どもって願ったようには育たない』ことにヒントあり～

講師：汐見 稔幸さん（白梅学園大学学長）

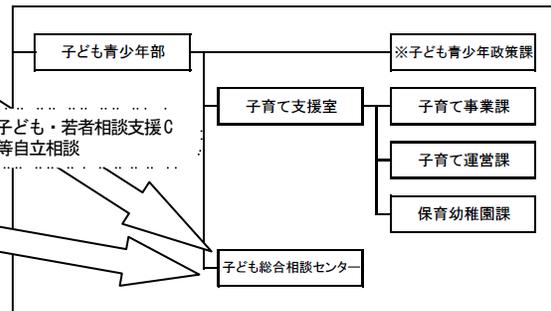
参加者：58人



機構図 平成 27 年度



平成 28 年度



市長からの愛称発表



サンプラザ 3 号館 4 階

## 【5】ひきこもり等地域支援ネットワーク会議の取り組み

### 1. 平成28年度の活動状況

ひきこもりやニート、不登校などの相談機関・関係機関のネットワーク構築のため、平成24年6月より枚方市内で活動している各関係機関に呼びかけて、枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議（以下、ネットワーク会議という）を開催しています。

平成28年度は、偶数月に全体会議を奇数月に世話人会議を開催しました。世話人会議で次回の全体会議のテーマやネットワーク会議の方向性を検討しました。全体会議のテーマは、年間で医療、教育、労働（雇用）など、まんべんなく取り上げるよう工夫しました。

また、平成27年度までは、市内4つの家族会とそれぞれ意見交換を実施していましたが、平成28年度はそれらの連絡組織として「枚方市ひきこもり家族会連絡会」が結成されたので、連絡会の代表者に全体会議に毎回出席してもらうことになりました。そこで2月の全体会議は連絡会の構成家族会や当事者会の皆さんをパネラーに、「ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム」を実施し、広く参加者も募りました。

その他、今年度は新たにひきこもりの若者の就労支援にご尽力されている民間事業所も参加いただけることになりました。当事者の社会参加や就労支援など、いわゆる「出口」の開拓は重要なテーマで、今後活発な情報交換が出来ればと考えています。

また、個人情報に十分配慮した上で、参加機関から提供された事例をもとに、支援について学び合うことを目的とした事例検討会（ケースカンファレンス）を実施しました。

実施日	会議名	内容
4月21日	第1回全体会議	①各機関からの自己紹介 ②ネットワーク会議の今年活動予定についての検討
5月26日	第1回世話人会議	①次回全体会の内容検討 ②本年度の年間計画検討
5月26日	ケースカンファレンス	事例提供機関：ひきこもり等子ども・若者相談支援センター 社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー
6月16日	第2回全体会議	枚方市における地域での子ども・若者施策について 報告：枚方公園青少年C、枚方市青少年育成指導員連絡協議会 枚方市子ども青少年課、ちいさなほいくえんみんなの里
7月21日	第2回世話人会議	次回全体会の内容検討
8月25日	第3回全体会議	地域との連携による若者の就労支援について 報告：京阪毎日新聞舎、NPO法人ホースフレンズ事務局 見学：宮之阪商店街「宮のサポ」
9月15日	第3回世話人会議	次回全体会の内容検討
10月15日	第4回全体会議	①子どもの居場所づくり(子ども食堂)の取り組みについて ②地域の医療機関におけるひきこもり等の若者支援について 講師：フェルマータメンタルクリニック 小林将元
11月17日	第4回世話人会議	次回全体会の内容検討
11月17日	ケースカンファレンス	事例提供機関：ひきこもり等子ども・若者相談支援センター 生活困窮者自立相談支援センター
12月15日	第5回全体会議	高等学校・高等専修学校における若者の現状と進路支援について 報告：ECC学園高等学校、近畿情報高等専修学校
1月19日	第5回世話人会議	次回全体会の内容検討
2月19日	第6回全体会議	ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム シンポジスト：家族会4団体、当事者会1団体
3月16日	第6回世話人会議	次回全体会の内容検討、来年度の計画。 地域協議会について

## 2. 平成28年度 ネットワーク会議参加（案内）機関

枚方公共職業安定所（ハローワーク枚方）  
大阪府中央子ども家庭センター  
大阪府精神医療センター  
枚方市民生委員児童委員協議会  
枚方市社会福祉協議会  
NPO法人枚方市人権まちづくり協会  
枚方市地域就労支援センター  
枚方市いきいきネット相談支援センター（社会福祉協議会・人権まちづくり協会）  
枚方若者サポートステーション（NPO法人ホースフレンズ事務局）  
北大阪若者サポートステーション（NPO法人フェルマータ）  
大阪府若者サポートステーション（NPO法人スマイルスタイル）  
東大阪若者サポートステーション（社会福祉法人つむぎ福祉会）  
OSAKAしごとフィールド  
枚方市障害者自立支援協議会幹事会（NPO法人パーソナルサポートひらかた・社会福祉協議会）  
枚方市障害者就業・生活支援センター（社会福祉法人であい共生舎）  
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター  
長尾谷高等学校  
ECC学園高等学校  
大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程）  
大阪府立大手前高等学校（定時制の課程）  
近畿情報高等専修学校  
京阪毎日舎  
枚方市ひきこもり家族会連絡会  
枚方市教育委員会 児童生徒支援室  
枚方市 地域振興部 商工振興課  
枚方市 福祉部 障害福祉室  
枚方市 福祉部 生活福祉室  
枚方市 健康部 枚方市保健所 保健予防課  
枚方市 健康部 保健センター  
枚方公園青少年センター  
枚方市 子ども青少年部 子ども総合相談センター「となとな」（事務局）

以上31機関

### 3. 平成 29 年度のネットワーク会議全体会議の予定

基本的に、偶数月の第 3 木曜日、午後 2 時～ 4 時を予定しています。

#### ■第 2 回 ネットワーク会議

<日 時>6 月 15 日（木）午後 2 時～ 4 時

<場 所>メセナひらかた会館 4 階 特別会議室

<テーマ>①教育現場における支援や学び

- ・枚方市教育委員会  
枚方市における不登校への対応について  
適応指導教室「ルポ」の取り組みについて
- ・あおい学院代表・伊藤信孝さん  
あおい学院における支援について  
通信制高校サポート校について

②その他

※青少年問題協議会委員の方で、オブザーバー参加を希望される場合は、事務局までご連絡をお願いします。

【電話】子ども総合相談センター 050-7102-3227  
(子ども・若者・ひとり親相談担当)